

夢と希望、そして奈落の底へ

津南郷の満蒙農業開拓団、満蒙開拓青少年義勇軍

津南郷7ヵ村から、北「満州」の三江省(現・黒竜江省(こくりゅうこうしょう)) 鶴立県(かくりつけん) 東俊徳(しゅんとく)に92戸が入植しました。満蒙開拓青少年義勇軍(15歳~18歳)の派遣が、県内でもっとも多い村の1つが外丸村(現・津南町) 30人の青少年が茨城県の内原訓練所で3ヵ月の訓練を受け、満州に渡りました。

茨城県

満蒙開拓青少年義勇軍の内原訓練所にて



しかし「夢と希望」の日々は長くは続かず、昭和20年8月、ソ連軍の侵攻、終戦により、生死の境をさまよう悲惨な逃避行を体験することになります。

津南郷満蒙開拓団 1944 満州の鶴立にて



骨を埋めるつもりで満州へ

当時の津南郷7ヵ村の戸数は3670戸。満州移民の県から割当目標は300戸でした。対象は零細農家や農家の次・三男に向けられました。しかし故郷を離

れ、知らない満州に自ら進んでいく人はほとんどいません。各村の主立ち衆が必死になって、村ごとに講演会映画会を開いて渡満をあおり、個別に訪問して説得しました。「校長先生や村長に勧められ、決意した」人もいました。多くの人が、満州に骨を埋める覚悟で、財産を処分して出発したのです。

当時の村別移民送出数(92名)

村名	人数比率	村名	人数比率
外丸村	26 28.3	上郷村	16 17.4
芦ヶ崎村	10 10.9	秋成村	3 3.3
中深見村	4 4.3	下船渡村	8 8.7
倉俣村	19 20.6	その他	6 6.5

ソ満国境ぞいの奥地へ

満州への経路は、新潟港を出港し、朝鮮の最北の港羅津へ。そこから汽車で北上し、牡丹江、佳木斯から松花江を渡ってさらに北上、峻徳駅で下車。そこから東へ6キロほど歩いて開拓地に着きました。近くに鶴崗炭鉱があり、ソ連との国境ぞいでした。

津南郷からの入植者は、上郷、外丸、その他30戸単位に3集落に分けられました。各集落には、2戸建ての家屋が15棟ずつ建てられ、団長を決めました。入植当時は、極寒の冬と狼に脅えながら野菜や家畜での貧しい生活でした。これからという時、終戦でした。

老人・女子だけの逃避行

「満州に行けば召集はない」はウソでした。敗戦の年には、現地召集が始まり、ついに「根こそぎ動員」で、青少年義勇軍も入植者の男たちもみんな召集され、女子ども年寄りだけが開拓地に残されました。そこへソ連軍の侵攻。着のみ着のままで、乳飲み子を背に、子どもの手を引いて、しのつく大雨のなかの逃避行でした。やっとの思いで最寄りの駅にたどり着いても、列車は軍人優先で一般人はいつまでも待たされました。

(『津南町史通史編』より。写真は中村昭吉さん提供)